



研究所だより



2020. 5.22

No.1

令和2年，5月11日，やっと学校が再開となりました。世の中は自粛ムードがまだ漂ってありますが，とりあえずは子どもたちが学校に戻ってこられて何よりです。教職員の皆様におかれましては，それと同時に，取り戻さなければいけない学習や授業づくりに多忙な毎日になることと思います。研究所もやはり，学校が正常に動いてこそその研究機関であることを再自覚いたしております。皆様とともに本年度も中土佐検定をはじめ，様々な研究をしていく所存ですので，よろしくお祈いします。

めざす教育研究所像と本年度の取り組みの重点

(1) めざす研究所像

☆学力向上において，基礎基本の定着を図るために中土佐検定に取り組み，学校現場の課題解決にも共に取り組む教育研究所

☆学校・保護者・地域からもよく見える教育研究所

(2) 本年度の取り組みの重点

【重点1】中土佐検定の実施・結果分析

検定取組支援（加力 個別指導）

間違いランキングの活用の啓発

【重点2】小学校社会科副読本の編集（事務局）

【重点3】算数・数学科における主体的・対話的な授業づくりの研究

小学校・中学校のスムーズな接続についての授業づくり

【重点4】その他

- ・情報発信（広報・研究所だよりなど）
- ・広報の活用 ・研究所間の交流
- ・各種学力調査の結果分析と中土佐検定との関連性についての分析
- ・研究授業への参加や学校訪問
- ・家庭学習と中土佐検定の関連調査



よろしくお祈いします。

本年度より，小学校は新学習指導要領施行となったことから，算数テキストの改訂や社会科の副読本の編集も行っています。

中土佐検定

4月の教職員研修において、新しく本町にお越しの先生方には本町独自の検定「中土佐検定」について説明させていただきました。もう既に学校での取り組みを開始していただいているとは思いますが、本年度も組織的に取り組んでいただき、児童生徒の基礎学力の向上についてご指導くださいますよう、よろしくお願いいたします。

また、下記の物についての所在の確認をお願いします。

小学校	中学校
算数テキスト（全学年）	数学テキスト（全学年）
ことばのきまり（全学年）	英語テキスト（全学年）
中土佐のくらし（3・4年）	漢字テキスト（全学年）
間違いランキング集（4～6年）	間違いランキング集（全学年）



中土佐検定



実施要項は下記のとおりです。

第1回の実施日が変更になりました。

1 検定試験の実施日

	第1回	第2回	第3回
小学校（算数）	7月 1日（水）	11月25日（水）	2月17日（水）
中学校（数・英）	7月 3日（金）	11月19日（木）	2月 4日（木）
中学校（漢字）	9月24日（火）	1月21日（木）	

2 受検級

該当学年の級を受検する。

3 検定試験の内容

テキストの内容から出題する。



4 検定試験の実施時間

小学校および中学校漢字は25分で実施する。また、中学校は50分の検定試験の時間を設定し、2教科実施する。なお、2教科を別々に実施する場合は、それぞれ25分で実施する。

（ステップタイムや帯タイムを活用）

- 5 検定試験当日の欠席児童・生徒
検定日より，3日後までは本試験を受検できる。ただし，学級閉鎖などで欠席が長期にわたりそうな場合は，相談のうえ，実施する試験を決定する。
- 6 合格ラインと合格認定証の授与
100点満点で80点以上を合格とする。なお，合格者には教育委員会が合格認定証を授与する。
- 7 再試験・再々試験の実施
80点未満の児童・生徒については，再試験を各学校で実施する。なお，再試験で合格しなかった場合は，再々試験を行う。本試験欠席児童，生徒については本試験より3日以内なら本試験を実施し，それ以降欠席の場合は再試験を行う。
- 8 受検免除や配慮者の児童・生徒について
学校で判断し，検定試験1週間前までに研究所に連絡する。（電子媒体で可）
- 9 採点について
検定試験の採点は，大野見庁舎において教育研究所が行う。
- 10 町広報等での結果の公表
この制度の趣旨から，結果は，町全体のデータ（学年別の平均点・合格者数・合格率など）を公表する。
学校別のデータは公表しない。
- 11 間違いの多い問題と誤答事例
教育研究所が中心となり，各学校が結果やデータを活用できるようにするために，試験の終了後，間違いの多かった問題と誤答事例などをまとめ，各学校に配布する。

平成30年に，過去5年間の間違いランキング集を学校に配布させていただいています。小学校は4年生から6年生までの児童数，中学校は全生徒分です，これは毎年配布するものではなく，教室にそれぞれ的人数分，置くことにしています。試験前にはぜひご活用ください。また，これまでの試験については学校の方にファイルを配布させていただいております。本年度の試験もそれに綴じていただきますよう，お願いします。

算数・数学科における主体的・対話的な授業づくりの研究

究

新学習指導要領が今年度より小学校、来年度より中学校が全面的に施行されます。

その中で、数学科の目標は『数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。』と示されています。

その資質・能力とは次の3つです。

- ① 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・原則などを理解するとともに、数学的に解釈したり、表現・処理したりする技能を身に付けること
- ② 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養うこと
- ③ 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養うこと

また、数学的な見方・考え方とは、事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えることであり、数学の学習の中で働かせるだけではなく、大人になって生活していくに当たっても重要な働きをするものと考えられます。

中土佐町では、「確かな学力を身につけた児童・生徒の育成のため」に中土佐検定が平成25年度より実施されています。昨年度行われた全国学力・学習状況調査において小学校算数、中学校数学・英語において、町内正答率は全国を上回っていることから、この取組が学力向上につながっているとと言えます。その一方で、これまでの検定実施データを振り返ると学年や級において正答率に差があったり、正答率が低いままの問題があったりするなどの課題が見られています。

この課題を改善するためには、解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解いたり、定められた手続を効率的にこなしたりすることにとどまらず、主体的に学び続けて自ら能力を引き出し、自分なりに試行錯誤したり、多様な他者と協働したりすることができる授業づくりが必要であると考え、本研究テーマを設定しました。

中土佐検定や各種学力調査等の結果を分析し、実態把握を行いながら、課題解決の方策を考えていきます。色々ご協力をお願いすることがあると思いますので、よろしくお願いいたします。

